

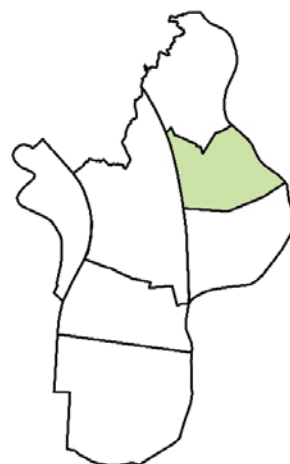
6. 鹿骨地域

(1) 地域の概況

① 地域の成り立ち

鹿骨地域は、区の東端に位置し、市川市と隣接した、江戸川と新中川に囲まれた小岩地域以南の地域です。

かつては水田の広がる田園地帯であり、昭和初期に現在の東京都農林総合研究センターが開設され、戦後の土地改良事業により街区の基礎が形成されました。昭和60年代になると、篠崎駅開業を契機に、駅周辺で土地区画整理事業が始まり良好な住宅地が形成されました。また、篠崎文化プラザや商業施設も整備され、区民の利便性が向上しました。花卉や小松菜を栽培する農地、生垣や屋敷林が多く分布しています。



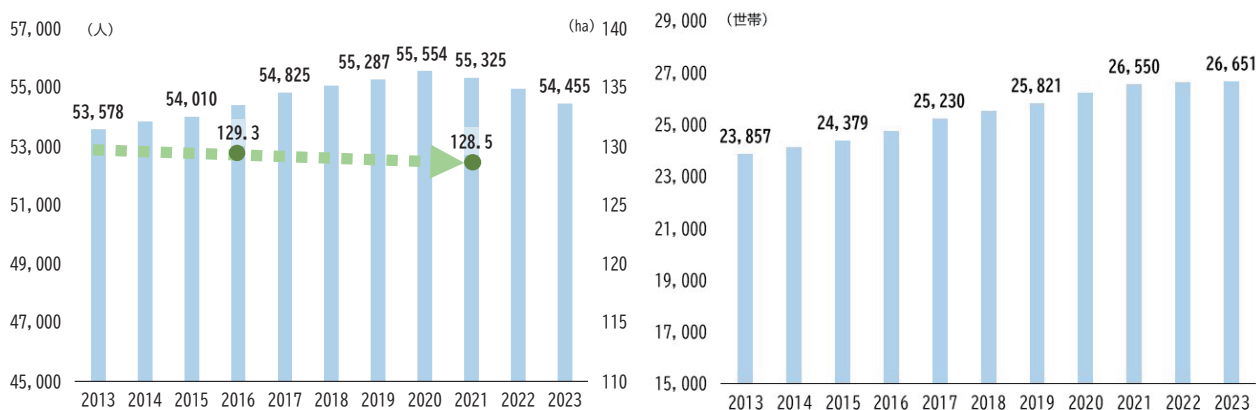
今後は、農地を保全・活用し、地域特性を活かしながら、魅力あるまちづくりを行います。

② 人口・世帯

人口は、令和2(2020)年までは微増の傾向にありましたが、その後減少に転じ、令和5(2023)年には54,455人となっています。ピークの55,554人から約1,000人減少しています。

世帯数は増加傾向にあり、令和5(2023)年には26,651世帯となっています。

みどりの面積は、平成28(2016)年に129.3ha、令和3(2021)年に128.5haとやや減少しています。



鹿骨地域の人口推移と
みどりの面積 (ha)

鹿骨地域の世帯数推移

③ 土地利用

- 江戸川右岸一帯や篠崎公園など、大規模なみどりのオープンスペースが整備されています。
- 土地区画整理事業が行われた篠崎駅周辺は、商業施設や集合住宅が立地しています。



凡例					
	官公庁施設		スポーツ・興行施設		公園・運動場等
	教育文化施設		独立住宅		未利用地等
	厚生医療施設		集合住宅		道路
	供給処理施設		専用工場		畑
	事務所建築物		住居併用工場		樹園地
	専用商業施設		倉庫運輸関係施設		水面・河川・道路
	住商併用建物		農林漁業施設		原野・森林
	宿泊・遊興施設		屋外利用地・仮設建物		その他

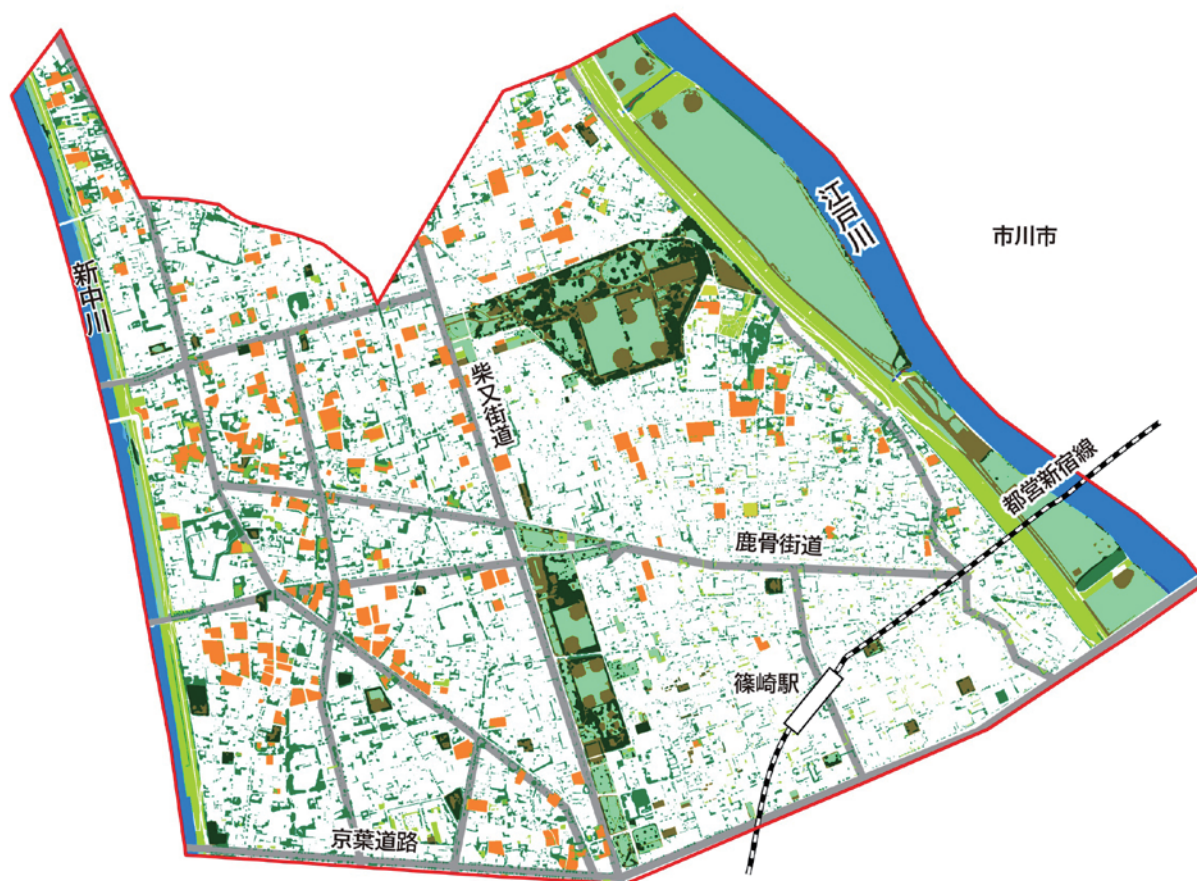
土地利用（鹿骨地域）
 （令和3（2021）年度区部土地利用現況調査）

④ みどりの現状

- 江戸川右岸一帯や篠崎公園など、大規模なみどりのオープンスペースが整備されています。
- 花卉^{かき}や小松菜を栽培する農地など、都内でも貴重な農の空間がみられます。
- 本地域には51園の公園があり、このうち1,000㎡未満の公園は26園(51.0%)、1,000以上2,500㎡未満の公園は18園(35.3%)、2,500㎡以上の公園は7園(13.7%)となっています。区民一人あたりの公園面積が10㎡を超えており、7地域で最も大きい状況です。
- 本地域のみどりの目標に対する現状は以下のとおりです。

指 標	現状値
地域のみどり率	36.7%
区民一人あたりの公園面積(陸域)	12.4㎡
身近な公園の充足率	95.2%

※ みどり率は平成30(2018)年の数値を使用



凡例		
樹林	農用地(樹林)	水面・河川・水路(草地)
原野・草地	農用地(草地)	公園・緑地(水面)
公園・緑地(樹林)	農用地(緑被地以外)	公園・緑地(緑被地・水面以外)
公園・緑地(原野・草地)	水面・河川・水路(樹林)	水面・河川・水路(緑被地以外)

みどりの状況(鹿骨地域)

(2) これまでの取組

年	主な取組
昭和 4 (1929)年	東京府立鹿骨園芸採取園（現東京都農林総合研究センター）開設
昭和 38(1963)年	新中川放水路（新中川）開通
昭和 42(1967)年	篠崎公園開園
昭和 61(1986)年	都営新宿線篠崎駅開業
平成 3 (1991)年	興農親水緑道完成
平成 7 (1995)年	鹿骨親水緑道完成
平成 19(2007)年	浅間神社特別緑地保全地区指定
平成 20(2008)年	本郷用水親水緑道完成
令和 5 (2023)年	農の風景育成地区の指定

(3) 魅力と課題

① 魅力

【都内でも貴重な農の空間】

- 昭和4(1929)年に現在の東京都農林総合研究センターが開設され、この周辺は本区の農業振興の拠点となりました。鹿骨地域には、江戸時代から代々小松菜農家を営んできた農家が多く、本地域は区内で有数の小松菜栽培エリアとなっています。また、花卉栽培もさかんであり、朝顔、サクラソウ、春の七草の寄せ植えなどの草花が生産されています。また、区民農園が集積するほか、生垣や樹木が植えられている農地も多く分布しています。
- えどがわ環境財団により、地域内の生産緑地で、区民とともに花やブルーベリーを育てる取組が実施されており、農地の積極的な活用、触れ合いの促進がなされています。



東京都農林総合研究センター江戸川分場

【歴史資源の点在】

- 鹿骨地域には、「せんげんさまの森」として親しまれている浅間神社、旧鹿骨村の鎮守である鹿島神社などの寺社が分布し、古木や大木も残っており、歴史資源と一体となったみどりがみられます。



せんげんさまの森(浅間神社)

【親水緑道、公園、河川敷】

- 本地域には、鹿骨親水緑道や本郷用水親水緑道など5路線の親水緑道が整備され、水とみどりのネットワークを形成しています。また、篠崎公園や江戸川河川敷などの大規模なオープンスペースも整備され、賑わい拠点となっています。



篠崎公園



鹿骨親水緑道

② 課題**【農地の保全】**

- 鹿骨地域を特徴づける農地は減少傾向にあり、今後、営農者の高齢化に伴う担い手不足により、さらに減少することが懸念されます。令和5(2023)年には「農の風景育成地区」に指定されたことから、農家・地域住民・行政が協力し、農の魅力発信や農を守る機運の醸成、農家の支援などを積極的に行っていく必要があります。

【安全性の確保とみどりの充実】

- 江戸川沿川は、密集する木造住宅の改善と大規模水害に強いまちづくりが求められており、高規格堤防整備と一体となった効果的な緑地整備や市街地整備を検討する必要があります。
- 上篠崎の江戸川沿川での高規格堤防の整備により、安全性を確保しつつ水とみどりのネットワークを形成する必要があります。
- 区内の環状道路を形成する補助第288号線の整備が進められており、道路整備に合わせた計画的な街路樹の植栽を検討する必要があります。

(4) 地域の将来像と方針

① 将来像

農の風景を継承し、みどりが住環境と調和するまち

② 方針

◆農の風景の保全・育成

- 「農の風景育成地区」に指定された鹿骨1丁目及び2、3、4、5、6丁目、新堀1丁目の各エリアを農とみどりの拠点として位置づけます。本拠点を中心として、農と住環境が調和したまちなみを保全し、将来へ継承するための取組を実施していきます。
- 営農継続が困難となった農地を、農をテーマとした公園などに整備し、農に触れ、学び、農家との交流を通じた『農のファン』を育成する場とします。
- 農の魅力発信など、農家や地域住民と協力して農を守る機運を醸成します。

◆都市計画道路事業や区画整理事業に合わせた新たなみどりの創出

- 篠崎公園周辺のまちづくりでは、高規格堤防事業、都市計画公園事業、土地区画整理事業、都市計画道路事業、都市計画緑地事業を一体的に推進することとしており、江戸川との一体性、良好な住環境の形成、篠崎公園地区の防災機能の充実などを図りながら、計画的に新たなみどりの創出や水とみどりのネットワーク形成を行っていきます。
- 補助第288号線の整備に合わせた計画的な街路樹整備を検討します。

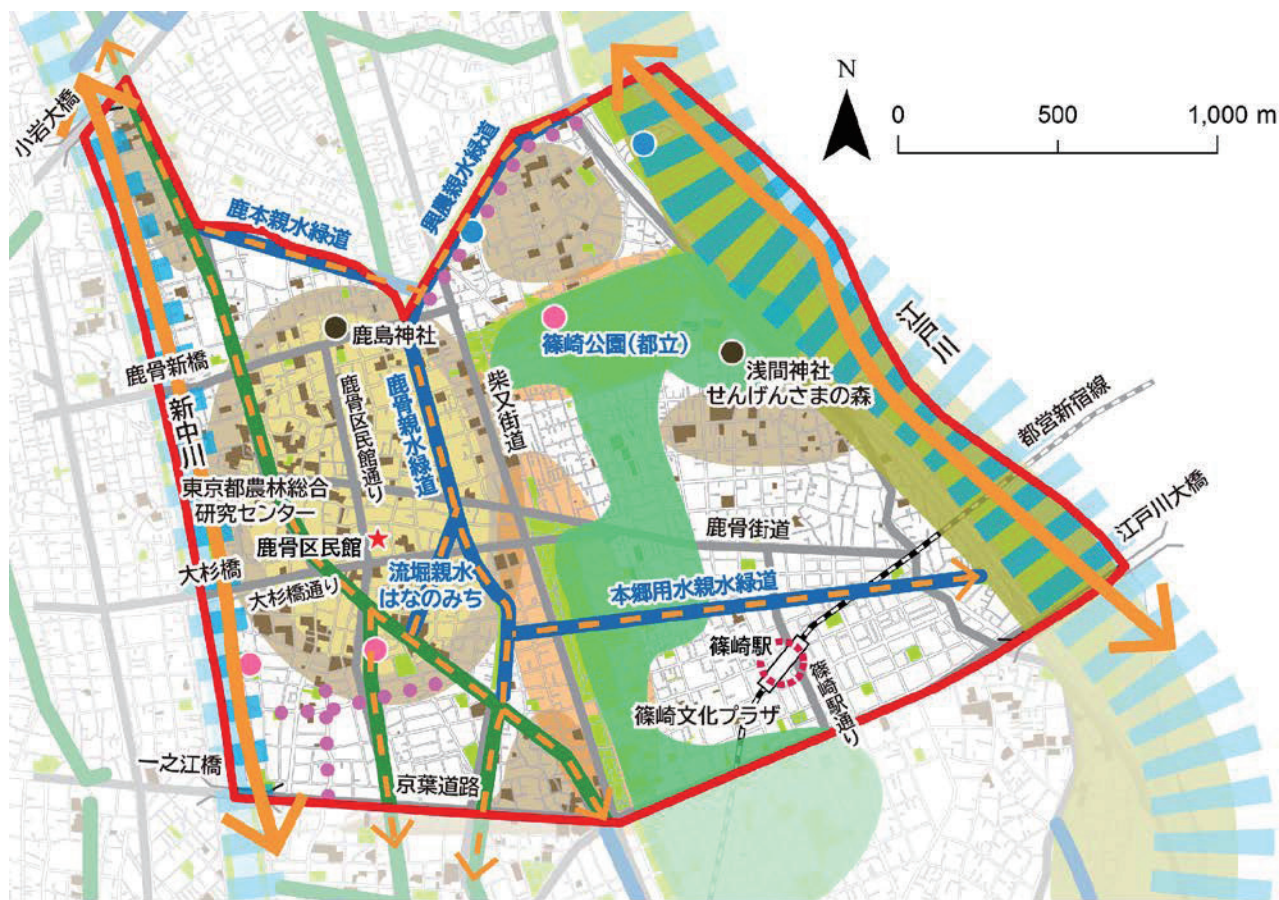
◆豊かな水辺空間を活かした生物多様性の保全

- 地域を縦横断するように親水緑道が整備され、地域の特徴的な空間が形成されています。親水緑道を水とみどりの生活軸と位置づけ、親水空間や豊富なみどりの空間を拡充するとともに、エコロジカルネットワークの形成にも力を入れていきます。
- 江戸川と新中川では多様な生物が確認されており、生物の生息空間を引き続き保全・育成していきます。

◆大規模公園の整備促進

- 篠崎公園とその一体をみどりの拠点及び生物多様性拠点として位置づけます。篠崎公園には、野球場、テニスコート、バーベキュー広場などがあり、敷地内には芝山やみどりのオープンスペースが整備されています。地域の顔として、公園機能の拡充やみどりの計画的な整備などを進めていきます。また、生物の生息空間の確保やエコロジカルネットワークを考慮したみどりの配置などを意識し、整備していきます。

※バーベキュー広場とテニスコートの一部は、篠崎公園の再整備に伴い閉鎖しています。整備が完了し次第、再開する予定です。



凡例			
	鹿骨地域		<拠点>
	江戸川区行政界		自然交流拠点
	公園		みどりの拠点
	河川		農とみどりの拠点
	農地		農地が多いエリア
	幹線道路等		生物多様性拠点
	鉄道		地域の顔となる拠点
	区民館		歴史資源
			ビオトープ
			サクラの名所(広場)
			<軸>
			水とみどりの軸
			<ネットワーク>
			水とみどりの生活軸
			主な緑道など
			エコロジカルネットワーク
			サクラの名所(並木)

みどりと生物多様性の方針図（鹿骨地域）